

Yamakado News Letter

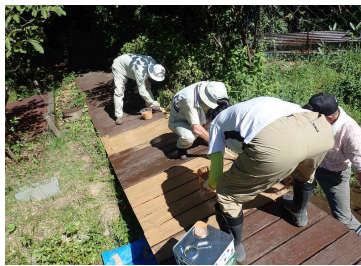


児童らで賑わう 山門水源の森

9月3日、永原小学校の山門全校学習が行われ、児童95名が来訪しました。引き継ぐ会会員のガイドのもと、児童たちは各学年ごとのテーマに沿って学習しました。

例年春と秋の二回行われるのですが、今年はコロナ禍の影響で春は中止となり、1年生は初めての山門水源の森訪問となりました。逆に高学年になると何度も来ていますから、随分山のことに詳しくなっています。会員があるポイントで説明を始めようとすると、「あそこになあ、クマの爪痕があるんやで〜」と先回りして話したりします。

しかし、山の中では常に新しい発見があります。5年生は保全作業で袋詰めチップを湿原まで運び、コース上のヒノキの根の養生に撒いてくれたのですが、少し時間が余りました。そこで、モリアオガエルの観察に南部湿原まで足をのばすことにしました。そうしたところ、幼体（仔ガエル）になってササの葉で休憩しているモリアオガエルを観察することができました。「ボク、初めて見たわ」今回も新たな発見があったようです。



楽舎設備のメンテナンス

9月5日の保全作業の日は会員17名が参加。毎年夏頃に楽舎のメンテナンスをしています。8名が湿原で外来種除去などの作業にあたり、残り9名で楽舎施設の塗装や草刈りをしました。作業手順は毎年同じなのですが、開始直後は養生シートはどうするのか、塗装はどこから始めるか、いやまずは水洗いだ、などなど混乱が生じます。しかし、あーそうだったと色々思い出して作業が流れ出すと、後は黙々と作業。半日で大方塗ることができました。

また19日の第3土曜日は14名が参加。外来種除去、大津祭り保存木アカガシの芽欠き、排水路整備、階段部材の防腐剤塗布などを実施しました。

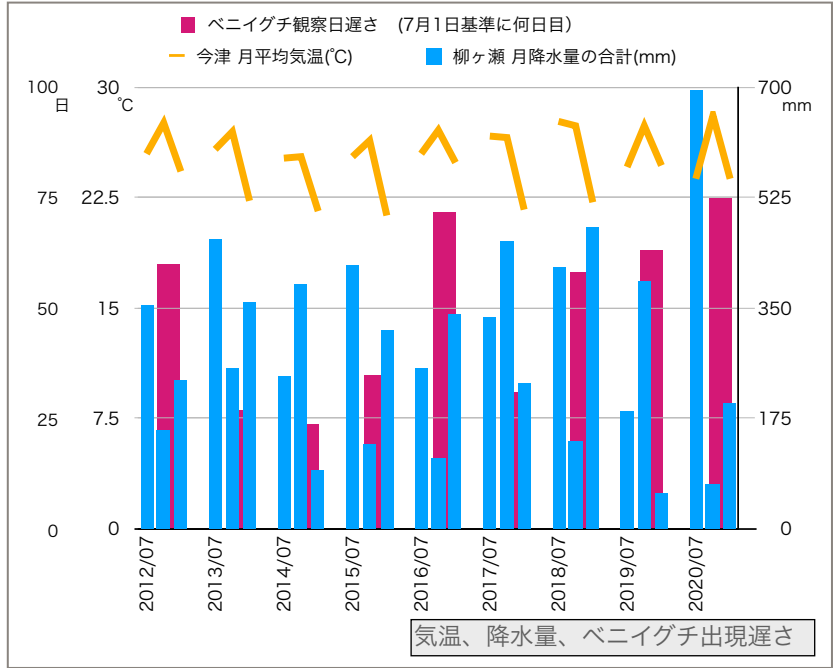


ベニイグチ 観察記録上で 再遅の出現

毎年夏によく観察されるベニイグチですが、今年は9月14日に初観察されました。2012年からの観察記録で、最も遅い出現となりました。ニュースレター237号（今年の8月号）でも書いたのですが、飽きもせず今回も気温、降水量と出現日に関連が見られないか、考察してみました。

昨年は日別の数値で考察しましたが、今回は7月から9月の各月の平均気温、降水量は各月の合計で考察しました。ベニイグチの出現の遅さは7月1日から初観察日までの経過日数を数値化しました。出現が早いと値は小さく、遅いと大きくなります。

右がグラフ化した図です。これを見ると、8月の気温が高いとベニイグチの出現が遅い傾向が見られると思いますが、皆さんはどう思われますか？



9/14 初観察 四季の森にて



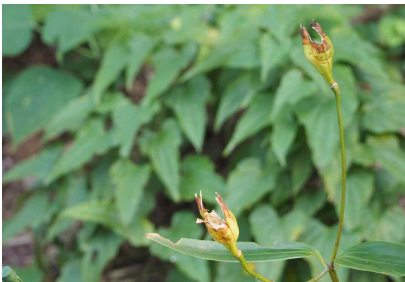
2014年は7/24に初観察

犯人は誰だ？

8月19日のパトロールでササユリの蒴果が多数食害を受けているのが発見されました。場所は牧場側進入路脇の防獣ネット内。ネットに破れがないか、裾部分に空きがないか、全周をチェックするも不具合はなく、シカが侵入した痕跡もありません。しかし、その後も日々被害は増えていきます。誰が犯人か？ネットを潜れる小動物なのか。そこで、まだ被害のない蒴果に向けてセンサーカメラを仕掛け、数週間観察をしてみました。しかし、何も動物は映らず、よくわかりません。

ところがその後、別の場所でササユリの蒴果を食べる生き物を発見しました。ルリタテハの幼虫です。食草はサルトリイバラやユリ科のホトトギス属やユリ属とのこと。ササユリも対象です。狭い区画の中で一斉に多数の幼虫が発生したのでしょうか。しかし、それにしても沢山の蒴果がやられていきますから、大変な食欲です。

その他、森の様子



被害にあったササユリ蒴果 8/21



9/8 ササユリ蒴果を食すルリタテハ幼虫 上画像 7:50→下画像 14:30



タモゴタケ発生 9/21 北部湿原上流



規格外のハイカグラテンゲタケ 9/24 四季の森にて